

高等養護学校の併設は

ノーマライゼーション実践の場。

新しい試みを意義あるものに…

(2005年5月12日対談)



中野正堂
大塚高等養護学校校長



大塚道夫
大塚産業株式会社社長

同じ敷地内に高等養護学校を併設

大塚 来春、御校の敷地内に、高等養護学校が開校されるそうですね。

中野 高等養護学校は、軽度の知的障害の人が社会的、職業的な自立を目ざして通学する独立した学校で、一学年に八人のクラスが二つできます。普通科の学校に高等養護学校を併設する例は、県内は

もちろんのこと、全国的にも珍しいことです。カリキュラムは高等養護学校の目的に沿って確立されますが、授業以外の時間、たとえば、生徒会活動、部活動、式典などは一緒に行うこととなります。

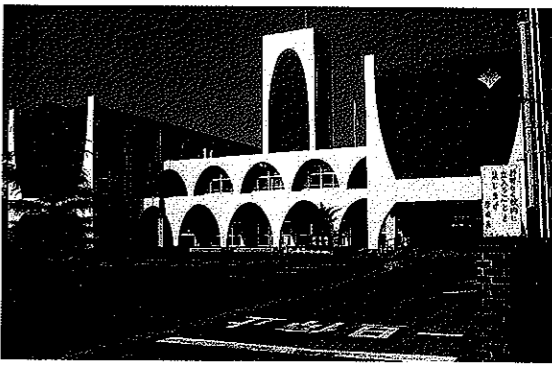
また、高等養護学校の併設は、障害のある人もない人もお互いに支え合うというノーマライゼーション

ョンを、十代の多感な時期に経験できる点でも意義があります。これは、一般社会を集約した場の展開とも言えますね。

大塚 先生方の準備もたいへんでしょうね。

中野 ふだんの生活のなかに障害のある人がおられることも、支え合うことも当たり前の姿なんです。が、障害者にとって必要で、適切な教育とは何なのか、それをきっちり準備しなくてはなりません。高等養護学校設置については、前校長がずいぶんご尽力くださったのですが、いまは、教師で組織した併設委員会で検討しているところです。とても建設的な意見をぶつけ合っている様子を見て、かなりレベルの高い土壌ができていますと感しています。

大塚 慣れた方法がやりよいのは



▲正門から望む長浜高校

当然ですが、チャレンジしていかないと取り残されてしまいますから…。弊社は三百年続いてきた会社ですが、同じことをやっていてはいけないという危機感をもって、次世代に引き継いでいくことを使命と思っています。

中野 大塚産業さんは、いつも進取の精神をもって経営していらっしゃいますね。

大塚 御校も前例のないことに取り組まれるわけですから、生徒さんにとっても、今までにない成長の機会が与えられることになるでしょう。

ところで、実際のところ、私自身、障害のある方にどう接してよいかかわらず、とまどってしまっているところがあります。

中野 障害のある方を見かけたとき、世の中の大半の人は気にしているはずなのに、声のかけ方がわからないのですね。

実は、私にも冷や汗をかいた経験があるのです。以前、他の学校で手話クラブの顧問をしていたとき、生徒といっしょに聾話学校を訪問しました。みんなで輪になって坐り、一人ずつ手話で自己紹介をするようになったのです。手話をまったく知らない私は、どうし

ようかとヒヤヒヤしていました。

私の順番が来たとき、聾話学校のおられたのと同じ苦しみを、耳の聞こえない子どもたちはいつも持っているのですよ」とおっしゃったのです。そのとき、ストーンとわかるものがありましたね。糸賀一雄さんが「この子らを世の光に」とおっしゃったとおり、子どもたちは、障害をカバーするために身体全体で表現してくれています。

新しい試みにはエネルギーや勇気が必要ですが、長浜高校の生徒たちも、いっしょにさまざまな体験をしてほしいと思っています。

クラブ活動や実習で培われた目的意識

大塚 御校の特色である福祉科からは、福祉のスペシャリストがたくさん巣立っておりますね。

中野 はい、今年十一年目を迎えました。昨年、合格率の全国平均が43%という介護福祉士の国家試験に、87%が合格しました。中学生の時すでに福祉の心をもっていた生徒たちです。入学後も意欲的に学習していますし、就職先の上司からも賞賛していただ

いています。

長浜高校が開校した昭和五十一年当時、駆け出しの教師だった私には、ユニークなデザインの校舎、明るい女子生徒の姿が印象的でした。今春、本校に着任しましたとき、出会った生徒が気持ちよいあいさつをしてくれて、あのころと変わらない純粋な姿をうれしく思ったものです。

大塚 クラブ活動に参加しておら

れる生徒さんも多いそうですね。

中野 ええ、生徒のほぼ90%が入部しています。何事にも積極的に取り組む姿勢を持っていますので、今後、障害のある人たちの共生ということについても、じっくり取り組み、実現できるという自信があります。

大塚 それは、先生方が、子どもたちの目線に立って指導してこられた結果でもあるんでしょうね。

中野 本校には、生徒、教師、保護者のよい関係ができています。考えて決定し、行動、成長するのは生徒自身で、教師の役目は、その力を引き出すことなんです。

大塚 そのためには、生徒がどんなことを考えているか、常につかんでおかないといけませんね。企業でも、社長の役割は、部下が気持ちよく働ける環境を整えることだと思っています。

中野 そういえば、企業体験をさせていただいた教師が学校に帰ってきたとたん、職員室の机の上がきれいになったことがありました。その先生は、整理整頓を学んできたのですね。

大塚 整理は必要か不要かに分けること、整頓は、不要なものを捨

てることです。整理整頓すれば、いいアイデアが出し合える。そして、仕事は自分流にアレンジして楽しむよう、言っています。

中野 そうですね。生徒たちには、周りに流されず、目的意識をしっかり持っている人間として、誇りをもって卒業して欲しい。私自身も、この歴史的な転換点にいられることを光栄に思っていますし、こういう形の高校が後に続くよう成功させたいと思っています。

大塚 生徒さんたちの福祉への意識もますます高まることでしよう。能力を発揮してくださることを期待しています。



▲福祉介護実習公開授業の様子